

# 2015年10月の供給レポート



## 樹木が育った年月しか木材は使えない？

- ・ 桧であれば、樹齢100年の木から取った材でも、使い方を間違わなければ500年は十分に使えます。
- ・ 木材は、環境条件が整っているときは耐久性が非常に高い材料です。
- ・ 木材が使えなくなる原因は、腐る、虫に食われる、燃えるなど、材質が劣化して力を支えられなくなるからです。
- ・ 木材の寿命を縮める原因は、繰り返し乾湿の変化にさらされる時と、長時間荷重が加わった状態で使ったり、繰り返し力が掛かっている時などです。
- ・ 濡れた状態、湿った状態で木材を使わないことです。
- ・ 木質の成分は化学的に非常に安定した物質なので、表面から1～2mm内部の材質はほとんど変わりません。
- ・ 桧材の例では、伐採し、使い始めてから約200年後に最も強くなります。その後、徐々に強度が下がり、伐採後1000年後に新材とほぼ同じ強さになるという結果があります。
- ・ ケヤキ材は使い始めてから徐々に強度が下がり、600年後には新材の6割程度になります。

(2015年9月1日 大阪木材仲買協同組合新聞記事より抜粋)



## 大阪府が森林環境税 個人対象、来年度導入へ

### 京都府も

大阪府と京都府は、森林保全などを目的に森林環境税を2016年度から導入する方針。

大阪府は府民個人から年間300円程度を、京都市は府民個人から同500～600円を徴収します。徴収は2019年度まで。大阪府全体の徴収額は年間11億円。

2014年時点で全国35県が導入。近畿では大阪、京都の2府のみが未導入。

溪流沿いの倒木の搬出や流木を防ぐダムの建設などの費用に充てます。

(2015年9月1日 日本経済新聞記事から抜粋)



## 今月の木の話

## 地球上の炭素循環について

「なぜ木を伐って使わなければならないのか」を説明するときには、森林の二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）吸収能力や木材製品の炭素固定能力を強調するのが普通です。

増大する空気中のCO<sub>2</sub>を無公害的に吸収固定できるのは森林・木材だけです。

「地球上の炭素循環」から言えば、世界中の生きとし生けるものが炭素循環の輪の中にあること、そして空気中のCO<sub>2</sub>が無くなれば、生物界自体が地球上から消失します。

人間の体重の18%が炭素です。火葬されると、人体を構成していた炭素が、二酸化炭素となって空気中にばらまかれます。それが光合成によって植物に吸収されます。穀物のように動物に食べられることによって動物に生まれ変わるものもあります。草食動物が肉食動物に変わることもことがあります。さらに、木材のように長期間固定された後に元の循環の輪の中に戻っていくものもあります。炭素はまさに「輪廻して転生」しています。

（日刊木材新聞社発行「今さら人には聞けない木のはなし」より抜粋）

